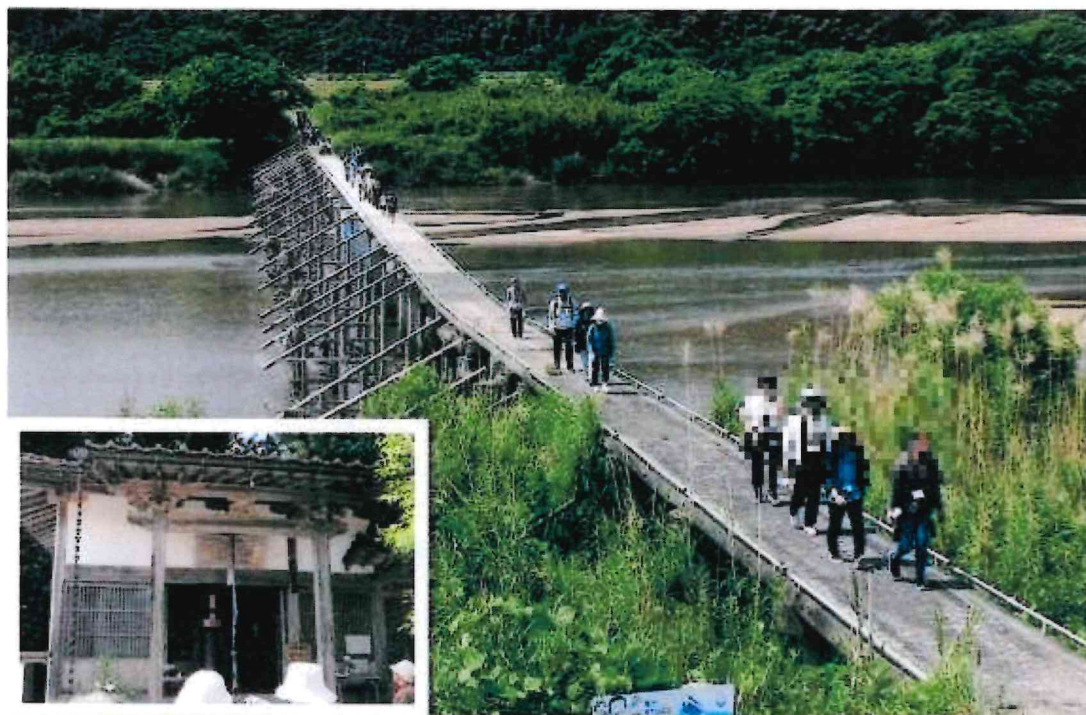




南部地区コミセン(上津・稗原・朝山・乙立・須佐・窪田)合同企画事業 上津を歩こう! 交流ウォーキング 5月31日(土)

南部地区の参加者89名が、上津地区をウォーキングしました。途中、上乘寺の「千手観音菩薩坐像」を拝観したり、斐伊川に架かる潜水橋「山田橋」を歩いたりするなど、楽しいひと時を過ごすことができました。

ふるさと朝山で見られる動植物 シリーズ ⑮

サンイントラノオ

朝山地区を含む立久恵峡一帯は、珍しい植物がたくさん見られる地域として全国的にも注目されている地域です。今回紹介するサンイントラノオもその珍しい植物の一つで、島根県のレッドデータブックでは絶滅危惧Ⅰ類に選定されている絶滅の恐れのある植物です。サンイントラノオ(山陰虎尾)は島根県内にしか生育しないいわゆる島根県の固有種で、立久恵峡一帯を中心に島根半島や県中部の岩山の露岩崖地でまれに見られます。50年ほど前まではホソバヒメトラノオと呼ばれていましたが、その後研究が進みサンイントラノオの和名で呼ばれるようになりました。

7月下旬から9月上旬にかけて、30cmほどに伸び出した茎の上部に青紫色の小さな花を穂状にたくさんつけ山の岩場を彩りますので、機会があればぜひご覧いただければと思います。以前はゴマノハグサ科のクワガタ属の植物とされていましたが、最新の分類ではオオバコ科とされています。

同じオオバコ科クワガタ属の植物では、隠岐島に自生するトウテイランがあります。サンイントラノオに比べると植物全体が白色の綿毛に覆われており、株全体が白っぽく見えます。8月上旬から9月中旬にかけて隠岐島の岩場で見ることができますので、この季節に隠岐に渡島する機会があればぜひごらんいただければと思います。なお、トウテイラン(洞庭藍)の名前は中国にある洞庭湖の藍い水の色のように見えるところから名付けられたものです。



▲サンイントラノオ



馬木町 佐藤仁志 ▲トウテイラン

コミュニティセンター広報 あさやま

令和7年7月22日発行
第95号
朝山コミュニティセンター
事業委員会 広報部

令和7年度 朝山コミュニティセンター運営委員会

朝山コミュニティセンターの各事業の計画・予算等について、審議・決定を行う組織です

【運営委員会委員】(名簿は全て敬称略・順不同)

板垣 勝正 (自治協会会長)	増原 勉 (所原下自治協会会長)	雲藤 一英 (交通安全対策協議会会長)
鳥屋尾浅富 (々 副会長)	飯塚 実 (所原中自治協会会長)	矢田 誠 (スポーツ協会会長)
飯塚 勝 (々 副会長)	奥井 彰 (所原上自治協会会長)	加藤富美子 (民生児童委員協議会会長)
落合 信夫 (々 監事)	岡田 清 (見々久自治協会会長)	成相 友之 (人権・同和対策協議会会長)
飯塚 明利 (々 監事)	飯塚 守 (社会福祉協議会会長)	横山 寿輝 (環境保全連合会会長)
石橋 健一 (馬木自治協会会長)	飯塚 俊昭 (土木委員会委員長)	藤見 公子 (ボランティアセンター長)
吉田 泰則 (朝山町自治協会会長)	広戸 孝治 (慶人会会長)	奥井 初江 (JAやすらぎ会長)

朝山地区の動き・お知らせ

たけのこ掘り (4月30日)

朝山幼稚園の子供たちが、桜下町内の高野春夫さんの竹やぶで、たけのこを掘りました。

タケノコ 採ったぞ〜



米づくり体験(田植え) (5月8日)

みなみ小学校の5年生(14名)と朝山幼稚園の園児(5名)が、田植えに挑戦しました。



ごみゼロ活動 (5月26日)

南中学校の生徒(2名)が、朝山コミュニティセンターの花壇の草取りをしてくれました。



朝山地区の健康づくり目標

- ① 人との交流を積極的に心がけましょう
- ② 運動習慣のきっかけづくりや情報提供をしましょう
- ③ 塩分、糖分の取りすぎに注意しましょう

朝山地区健康づくり委員会
徳永真由美、吉田和子、石倉早希

世帯数と人口

2025.3月末現在(昨年同期)
世帯数 596戸(585戸)
人口(男) 715人(731人)
人口(女) 834人(849人)
計 1,549人(1,580人)

今後のコミセン事業と地域の主要事業(予定)

随時	高齢者の健康づくり教室	10月26日	朝山地区文化祭
7月29日	夏休み子どもサロン	11月9日	同和教育研究指定発表会
8月3日	文化講演会	11月16日	ニュースポーツ体験会
10月5日	区民体育大会	12月上旬	しめ縄リース作り
10月18日	ハーバリウムを作ろう	1月上旬	冬休み子どもサロン
10月下旬	花を育てよう	2月	高齢者と未就学児の昔遊び

地域が誇る観光スポット

「地域が誇る観光スポット」は、地域の皆さんが観光客の方にぜひお勧めしたいと思う観光スポットを出雲市が認定する制度です。

朝山では、現在、8か所が認定を受けています。



▲馬木不動尊



▲勝定寺



▲朝山神社



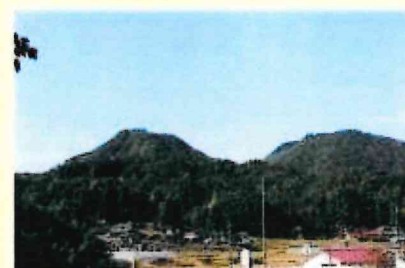
▲大坊と五輪の塔



▲岩根寺



▲富能加神社と旧富能加神社跡地
(聖神山)



▲大嶺山(右の山)
(神原側から撮影、左は雲山)



▲さくらロード見々久町

ふるさと再発見 シリーズ ⑥

金剛峯寺「大坊」と吉祥姫を祀る「五輪の塔」

福寿山金剛峯寺大坊は、出雲市朝山町の唐墨山の中腹にある真言宗醍醐派の古刹で、奈良時代(730年)に起源をもつ寺院である。往時は、大小の堂坊が四十二坊もあったとされ、まことに大坊の名ふさわしく隆盛を極めたものである。

しかし、時の武将、豊臣秀吉の朝鮮出兵に際して、住職であった光明院慶学法印が協力を拒否したことから、秀吉の怒りにふれ、一山焼討ちにより大部分を焼失、また寺領没収に遭い、現在に至っている。

近くの末寺深山寺には、光仁(こうにん)天皇の后「吉祥姫」を祀る五輪の塔がある。当寺の守護神とも伝わる吉祥姫には、次のような民話が残る。以下、略記して紹介する。

【吉祥姫の民話】

出雲の南部、上朝山の小高い山の急な小道を上ると、吉祥姫の墓と言われる五輪の塔がたっています。この吉祥姫は、今から約千二百年前、隣村の尊田の三人姉妹の末娘として生まれ、働き者で器量よしで、そのうえ気立ての良い娘でした。その頃、都では帝のお后を決める話が出ていました。

ある晩のことです。帝が休んでいると、「この絵にそっくりの女で、この履物がきちっとはける女を目印に、西の方へ行行って探すように」と神様のお告げがありました。目を覚まして枕元を見ますと女の絵と木靴が置いてありました。

帝の使いの者は西へ西へと旅を続けましたが、お告げの娘が見つからず、とうとう出雲の国で、絵の女と生きうつし、木靴がぴったり足に合う娘を見つけました。「おお、これはこれは。あなたこそ帝のお后じゃ。」早速、娘は都にのぼることになりました。娘は、帝のお后となってから「吉祥姫」と呼ばれました。

吉祥姫は、困った人を助けたり、施薬院を建てたりして、病人の看護にも尽くしました。やがて何年かたって、出雲の母親が重い病氣にかかっている知らせを受けとり、帝の許しを得て出雲の国にお帰りにになりました。

間もなく母はなくなってしまいましたが、吉祥姫は、都に帰らずに、母の霊をまつために上朝山の太坊という寺で仏様に仕えました。

吉祥姫まつわる民話は、「出雲のシンデレラ物語」として、親しみをもって現在まで語り継がれている。なお、吉祥姫は、当寺の守護神として今では祀られており、毎月十八日の護摩供養、および四月十八日の柴燈大護摩供には、吉祥姫の追善供養が執り行われている。

最後に当寺の寺宝を紹介する。

- 一、金剛界大日如来(伝行基菩薩作)
- 一、不動明王尊(伝慈覚大師作)
- 一、出雲國風土記(乾・坤和綴二冊)

島根県立図書館(蔵本)

【参考・引用文献】

白神尚彦「島根の寺院」有賀書房、1988年
金剛峯寺住職 藤林照賢



金剛峯寺 大坊



五輪の塔



大日如来



柴燈大護摩供

号外
同推協
だより

指定事業2年目がスタートしました!

朝山地区は令和6・7年度、出雲市同和教育研究指定事業を受けています。

5月に開催した人権・同和教育講演会では、中高(なかだか)ふれあい文化センター(鳥取県)の西村準一館長を講師にお迎えし、「中高集落の歴史とこれからの同和教育」と題して講演いただきました。6月には、中高地区を実際に訪問し、フィールドワークを実施。同和対策事業について、肌で感じる学びの機会となりました。(詳細は7月発行の広報紙をご覧ください!)また、今年度は各種団体での研修会を予定し、順次開催しています。今年度も皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

お知らせ

朝山地区人権・同和教育研究発表会

11月9日(日)午後 ※詳細は決定次第お知らせします。

ぜひお越しください!



フィールドワークの様子